

# 平成29年度 第1回 豊田市廃棄物処理施設等審査会 次第

日 時：平成30年1月31日（水）  
午前9時30分～

場 所：豊田市役所 環境センター3階  
環境部会議室

## 1 あいさつ

## 2 議 事

(1) (株)相建の産業廃棄物処理施設変更許可申請の概要について

(2) その他

## 3 現地調査

### (配布資料)

○(株)相建の産業廃棄物処理施設変更許可申請の概要

別紙1 位置図

別紙2 航空写真

別紙3 計画平面図(変更前、変更後)

別紙4 設計計算書

別紙5 構造図

資料1 産業廃棄物処理施設の設置に伴う生活環境影響調査の概要

○(株)相建の変更許可申請及び生活環境影響調査の写しを綴ったファイル

# 株式会社 相建の産業廃棄物処理施設変更許可申請の概要

## 1 申請者

- (1) 名称 株式会社 相建<sup>そうけん</sup>
- (2) 住所 名古屋市東区東桜一丁目10番24号
- (3) 代表者氏名 代表取締役 荒賀 剛志<sup>あらが たけし</sup>

## 2 施設の設置場所

- (1) 設置場所 豊田市篠原町石田苺20番1始め23筆  
※自社所有10筆のほかは借地
- (2) 設置 平成21年1月22日（大矢開発(株)から譲受け）  
\* 大矢開発(株)は、平成8年10月2日設置許可、  
平成10年4月埋立て開始

別紙参照：別紙1 位置図

別紙2 航空写真

## 3 産業廃棄物処理施設の種類の種類

安定型最終処分場

## 4 処理する産業廃棄物の種類

ガラスくず・コンクリートくず(工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く。)  
及び陶磁器くず(自動車等破砕物を除く。石綿含有産業廃棄物を含む。)、がれき類(石綿含有産業廃棄物を含む。) 以上2品目(水銀使用製品産業廃棄物を除く。)

## 5 変更の主な内容

	変更前	変更後
処理能力	埋立面積： 8,679m <sup>2</sup> 埋立容量： 82,070m <sup>3</sup>	埋立面積： 18,910m <sup>2</sup> 埋立容量： 202,363m <sup>3</sup>
位置、構造等の設置に関する計画	豊田市篠原町石田苺21番始め10筆	豊田市篠原町石田苺21番始め23筆

別紙参照：別紙3 計画平面図(変更前、変更後)

別紙4 設計計算書

別紙5 構造図

## 6 埋立容量の状況

(単位: m<sup>3</sup>)

年度	埋立量	廃棄物の内訳		
		ガラスくず及び陶磁器くず	がれき類	
H28	20,843	7,891	12,952	*産業廃棄物最終処分場実績報告書から(H28)
計	69,590	-	-	残余容量 = 12,480 m <sup>3</sup>

☆H29.3月 現況測量を実施した結果報告 残余容量 = 12,480 m<sup>3</sup>

## 7 廃棄物の処理工程等

① 展開検査 → ② 重機による転圧・敷き均し → ③ 覆土、転圧

## 8 施設変更許可申請に伴う生活環境影響調査の概要

資料1 参照 : 産業廃棄物処理施設の設置に伴う生活環境影響調査の概要

## 9 他の法令に基づく手続

(1) 砂防法 砂防指定地内行為許可 … 変更申請手続中

(2) 森林法 林地開発許可 … 変更申請手続中

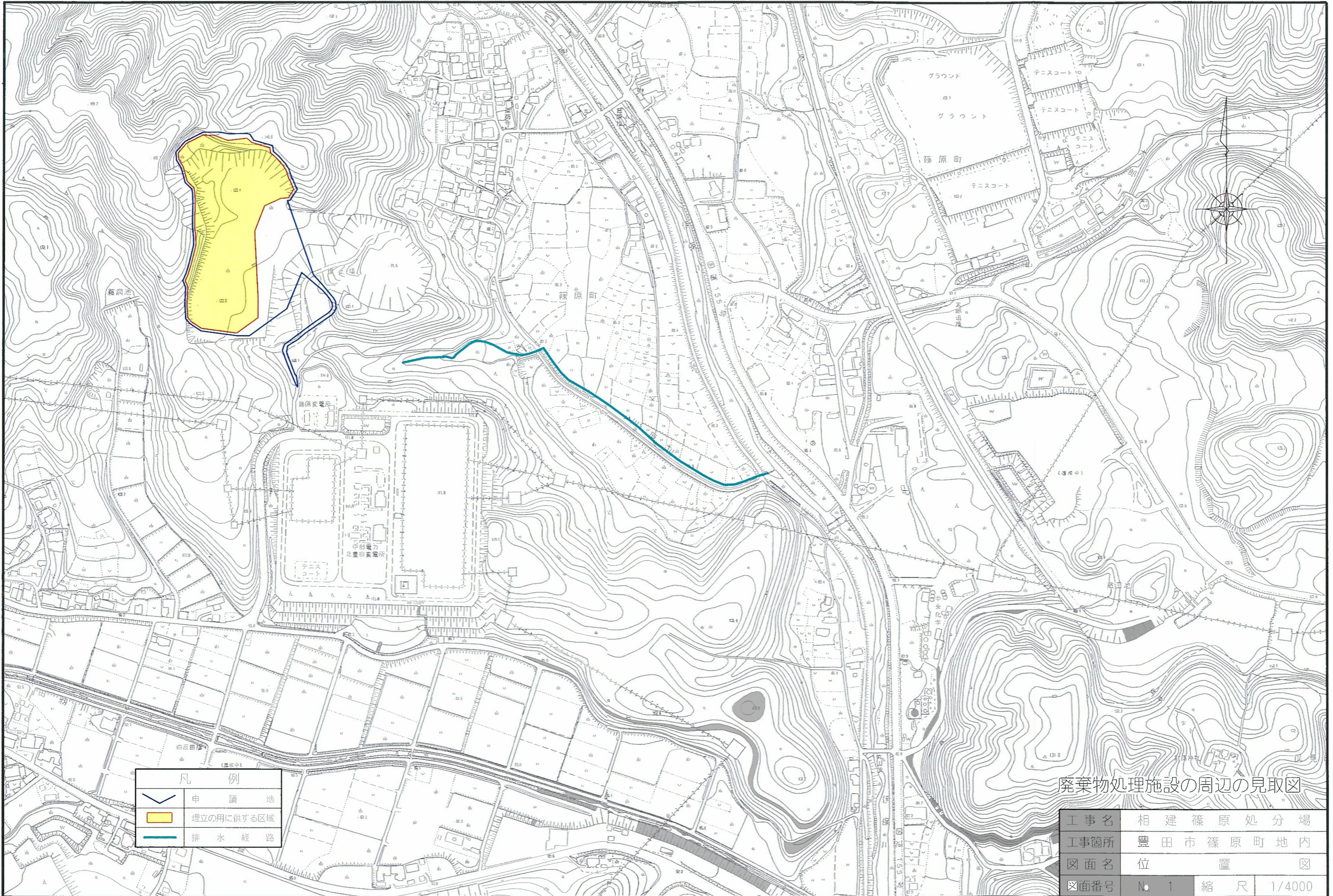
## 10 その他

### ●豊田市産業廃棄物の適正な処理の促進等に関する条例に基づく手続

事業計画等の縦覧	平成29年9月20日から10月19日まで実施	意見書提出なし
説明会の開催	関係地域に対して、平成29年10月7日に事業者が実施	質問あり ・分別の正確性は? →中間処理施設での分別指導の徹底のほか、現場での目視、展開検査を厳格に実施していると説明

### ●廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づく手続

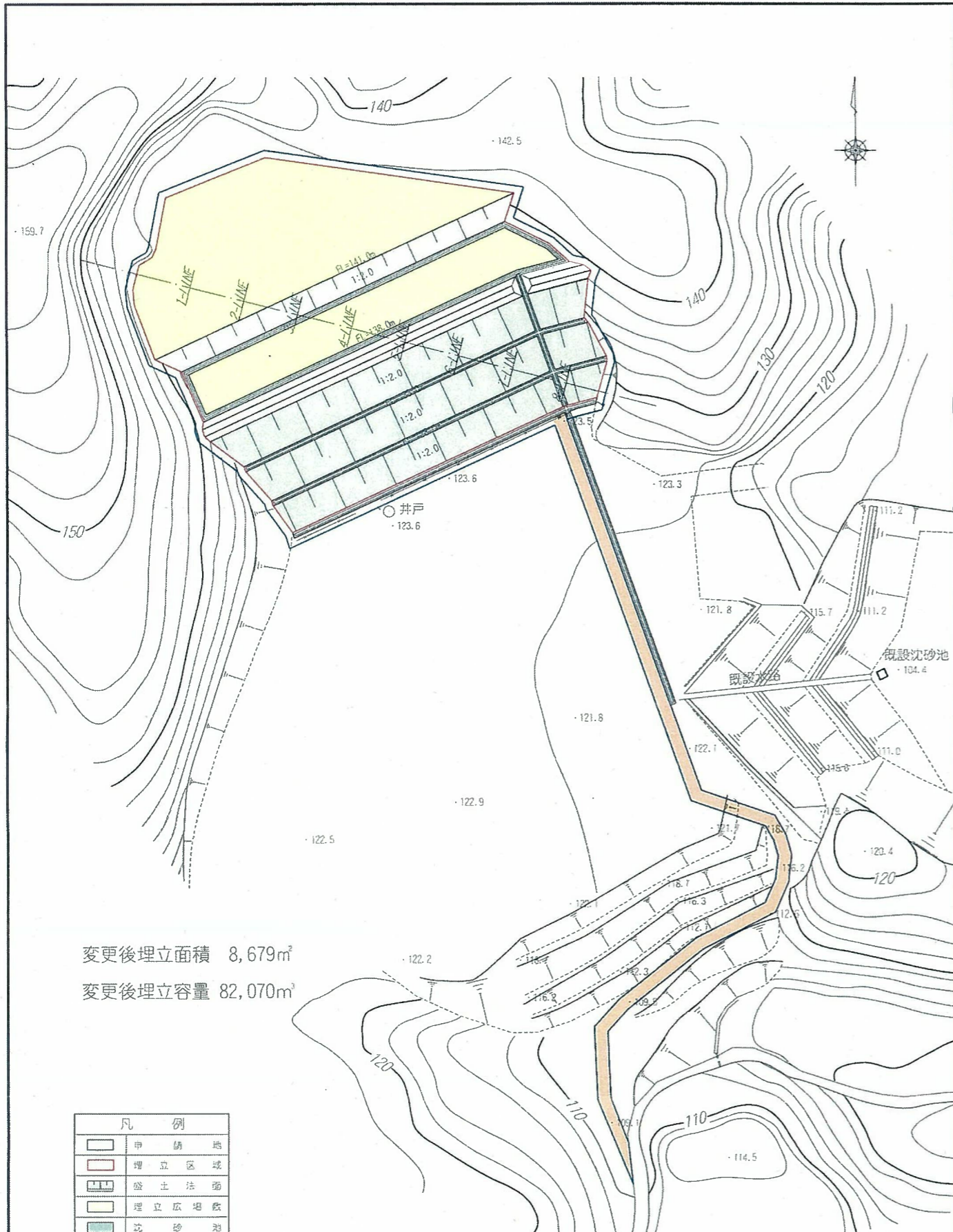
変更許可申請書の受理	平成29年11月14日
変更許可申請書等の縦覧	平成30年1月10日から2月9日まで実施中



廃棄物処理施設の周辺の見取図

工事名	相建篠原処分場
工事箇所	豊田市篠原町地内
図面名	位置 図
図面番号	No. 1 縮尺 1/4000





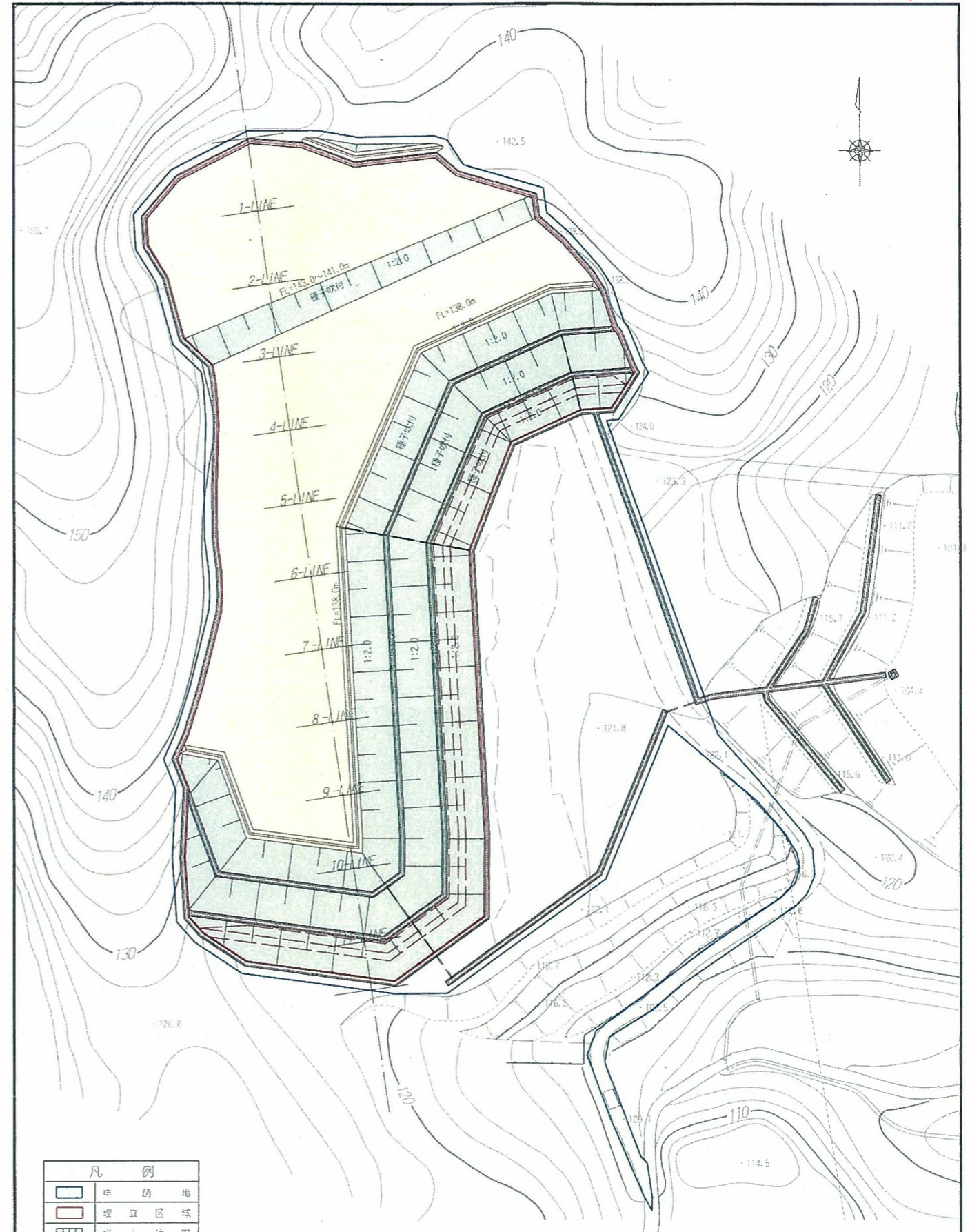
変更後埋立面積 8,679m<sup>2</sup>  
 変更後埋立容量 82,070m<sup>3</sup>

凡 例	
	申請地
	埋立区域
	盛土法面
	埋立広場敷
	沈砂池
	排水水路
	土砂流出防止壁
	かん止壁
	掘入路

事業用地の計画平面図  
 廃棄物処理施設の平面図

変更前

工事名	相連篠原処分場
工事箇所	豊田市篠原町地内
図面名	計 画 平 面 図
図面番号	No. 4 縮 尺 1/1000



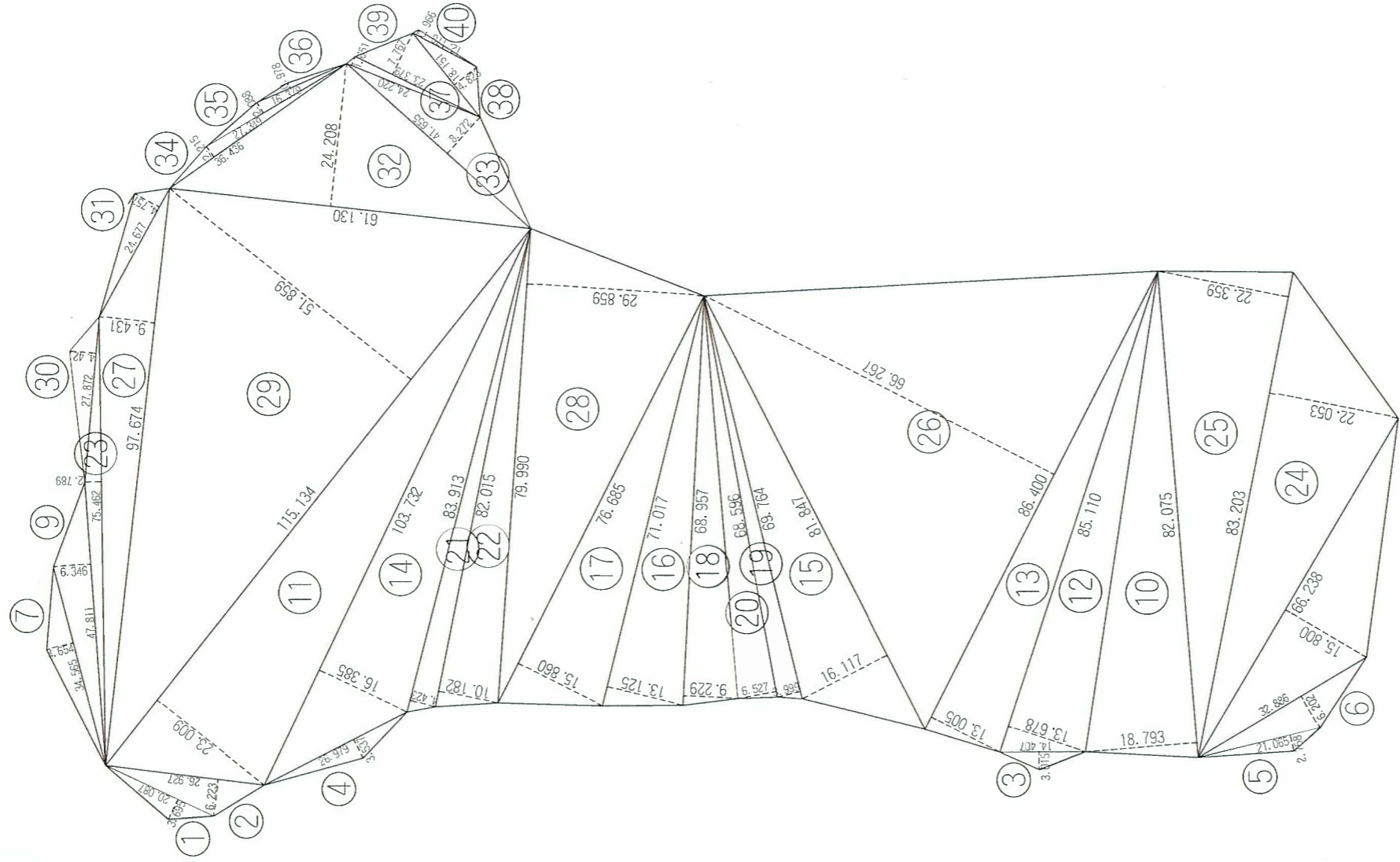
変更後埋立面積 18,910m<sup>2</sup>  
 変更後埋立容量 202,363m<sup>3</sup>

凡 例	
	申請地
	埋立区域
	盛土法面
	埋立広場敷
	沈砂池
	排水フェンス
	ソール水路
	土砂流出防止壁
	かん止壁
	掘入路

事業用地の計画平面図  
 廃棄物処理施設の平面図

変更後

工事名	相連篠原処分場
工事箇所	豊田市篠原町地内
図面名	計 画 平 面 図
図面番号	No. 4 縮 尺 1/1000

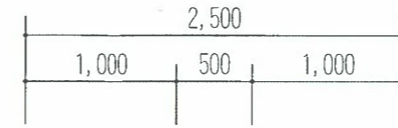


事業区域面積			
行号	底辺	高さ	面積
1	20.087	3.695	37.11
2	26.927	6.223	83.78
3	14.407	3.015	21.72
4	26.979	3.537	47.71
5	21.065	2.758	29.05
6	32.886	6.202	101.98
7	34.565	4.654	80.43
8	66.238	15.800	523.28
9	47.811	6.346	151.70
10	82.075	18.793	771.22
11	115.134	23.009	1324.56
12	85.110	13.678	582.07
13	86.400	13.005	561.82
14	103.732	16.385	849.82
15	81.847	16.117	659.56
16	71.017	13.125	466.05
17	76.685	15.860	608.11
18	68.957	9.229	318.20
19	69.764	3.999	139.49
20	68.596	6.527	223.86
21	83.913	4.423	185.57
22	82.015	10.182	417.54
23	75.462	2.789	105.23
24	83.203	22.053	917.44
25	83.203	22.359	930.17
26	86.400	66.267	2862.73
27	97.674	9.431	460.58
28	79.990	29.859	1194.21
29	115.134	51.859	2985.37
30	27.872	4.421	61.61
31	24.677	4.757	58.69
32	61.130	24.208	739.92
33	41.655	8.272	172.29
34	36.436	2.215	40.35
35	27.349	2.088	28.55
36	16.379	0.978	8.01
37	24.220	1.651	19.99
38	18.151	4.823	43.77
39	23.379	7.767	90.79
40	12.178	0.966	5.88
	合計		18910.21

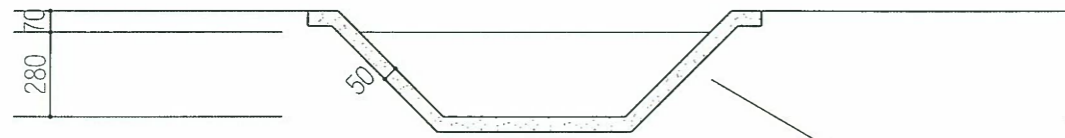
廃棄物処理施設の設計計算書

工事名	相建篠原処分場
工事箇所	豊田市篠原町地内
図面名	求積図
図面番号	No.7-2
	縮尺 1/1000

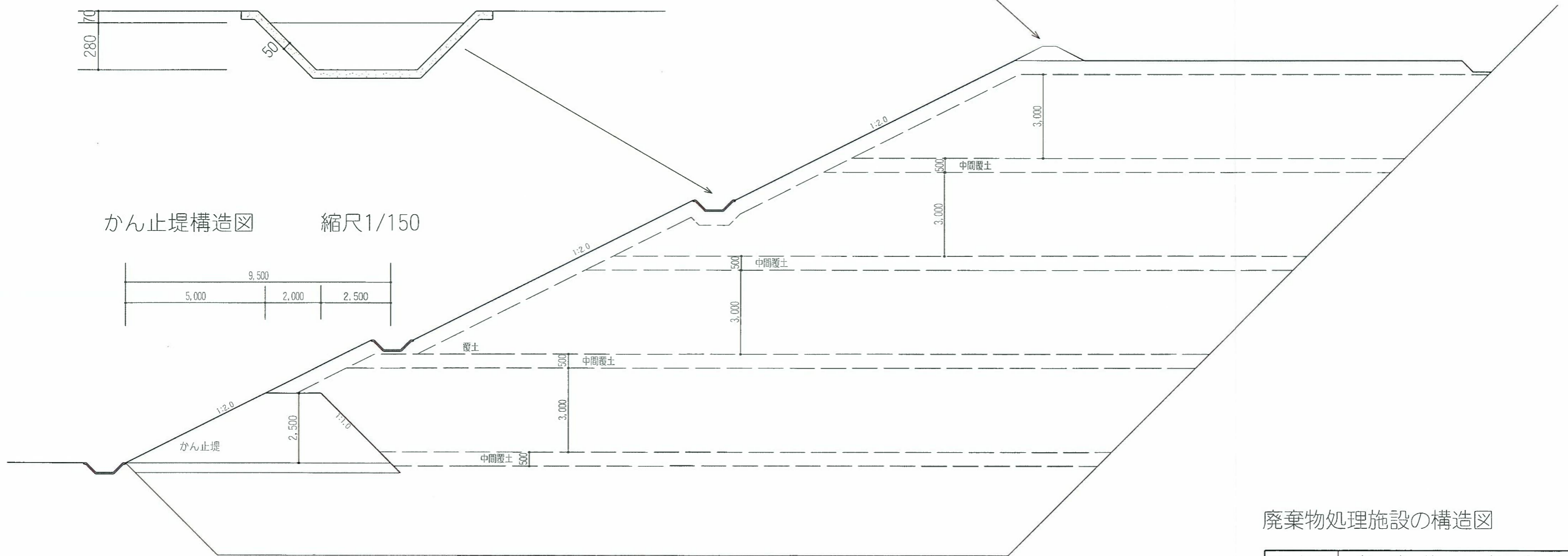
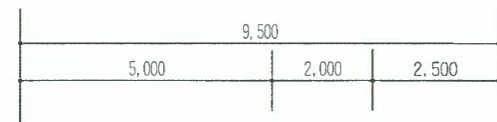
土砂流出防止堤構造図 縮尺1/50



ソイル側溝構造図 縮尺1/25



かん止堤構造図 縮尺1/150



廃棄物処理施設の構造図

工事名	相建篠原処分場		
工事箇所	豊田市篠原町地内		
図面名	構 造 図		
図面番号	N. 5	縮 尺	



## 産業廃棄物処理施設の設置に伴う生活環境影響調査の概要

## 1 廃棄物処理施設の概要

施設の種類	安定型最終処分場
処理する産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず(工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く。)及び陶磁器くず(自動車等破砕物を除く。石綿含有産業廃棄物を含む。)、がれき類(石綿含有産業廃棄物を含む。) 以上2品目(水銀使用製品産業廃棄物を除く。)
施設の処理能力	埋立面積 : 8,679㎡ → 18,910㎡ 埋立容量 : 82,070㎥ → 202,363㎥
施設の処理方式	水平堆積法による埋立
施設稼働計画	埋立作業日 : 5~6日/週 稼働時間 : 8~17時(操業日のみ) 使用重機 : 1台 搬入台数 : 平均8台/日(操業日のみ)
施設の構造、設備	土盛堰堤 : 高さ2.5m 外法勾配 1:2.0 内法勾配 1:1.0 囲い : 高さ1.8m 延長196m 雨水排水路 延長1,293m

## 2 生活環境影響調査項目

「廃棄物処理施設生活環境影響調査指針」(平成18年9月 環境省)に基づき実施

調査事項	生活環境影響要因		施設からの浸透水の流失または浸出液処理施設からの処理水の放流(陸上埋立)	最終処分場の存在(陸上埋立)	施設(浸出液処理設備)の稼働	埋立作業	施設(埋立地)からの悪臭発生	廃棄物運搬車両の走行
	生活環境	影響調査項目						
大気環境	大気質	粉じん				○		
		二酸化窒素(NO <sub>2</sub> )						—
		浮遊粒子状物質(SPM)						—
	騒音	騒音レベル				○		—
	振動	振動レベル				○		—
水環境	水質	特定悪臭物質濃度または臭気指数(臭気濃度)						
		生物化学的酸素要求量(BOD)	○注1)					
		化学的酸素要求量(COD)注2)	—					
		ダイオキシン類						
	浮遊物質(SS)	○注1)						
地下水	地下水の流れ			—				

※凡例 ○:調査・予測・評価を行う項目 —:調査対象から除外した項目 空白:調査を実施しない項目

注1) 安定型最終処分場については、浸透水が表流水系に放流される場合に限る。

注2) 化学的酸素要求量(COD)を含む浸出液処理水を、調査対象地域の水域に放流する場合、又はCODを含む浸透水が調査対象地域の水域に放流される場合には、CODを調査項目として取り上げる。

### 3 生活環境影響調査の結果

#### (1)大気質

##### ア 測定地点

平成28年6月における最多風向が概ね北寄りであることと、直近の民家までの距離、搬入経路付近であること、現地設置条件(電源位置)等を勘案して、計画地南側にある倉庫横とした。

##### イ 粉じん濃度測定、風速階級別出現頻度の調査結果

下記表1、2のとおり

表1:粉じん濃度測定結果(平成29年)

測定日	測定結果(mg/m <sup>3</sup> )	廃棄物搬入台数	規制基準
6月5日(月)	0.020	10t車 10台	・粉じん濃度には基準値等の定めはない。 〈参考〉 ・浮遊粒子状物質(SPM)に定められた1時間値の環境基準値は0.2 mg/m <sup>3</sup>
6月6日(火)	0.037	10t車 13台	
6月7日(水)	0.012	10t車 8台	
6月8日(木)	0.016	10t車 4台	
6月9日(金)	0.020	10t車 5台	
6月10日(土)	0.031	10t車 3台	
6月11日(日)	0.042	0台	

表2:地上1mでの風速階級別出現頻度調査結果(平成29年6月5日~11日)

風速階級(m/s)	0.4以下	0.5~0.9	1.0~1.9	2.0~2.9	3.0~3.9	4.0~4.9	5.0以上
出現頻度(%)	14.3	27.4	42.9	10.7	4.2	0.6	0.0

##### ウ 予測結果及び評価

「風害と防風施設」(文英堂出版)によると、土壌粒子の飛散する程度は、風速及び土壌の付着水分量によって異なるが、乾燥土壌では地上1mの風速が4~5m/sで転動、5~6m/sで跳躍、6~7m/sで浮遊を開始するとされている。

ビューフォートの風力階級表によると風力階級が4以上(風速5.5m/s以上)になると砂ぼこりが立つとされており、これに準ずる風速(5.0m/s以上)になるのは、1年間で5日(1.4%)であった。また、現地調査で得られた粉じん濃度は、総粉じんの結果であるが、浮遊粒子状物質(SPM)に対して定められている環境基準値からも下回る結果であった。

以上のことから、計画施設稼働による粉じんが周辺地域の生活環境に著しい影響を及ぼさないと評価する。

## (2)騒音

### ア 調査地点

変更計画地敷地境界付近3地点を設定

### イ 予測条件

埋立作業を予測地点寄りで作業を行った際に与える影響がどの程度か把握するものとした。

### ウ 予測結果及び評価

寄与騒音レベルと将来騒音レベルの予測結果は表3のとおり。

表3: 寄与騒音レベルと将来騒音レベルの予測結果

単位: dB

予測地点	寄与騒音レベル	現況騒音レベル(暗騒音)	将来騒音レベル	規制基準	発生源からの距離
直近民家	51.6	51	54.3( Leq)	55( Leq) (環境基準値)	135m
No.1	77.5	47	77.5( L5)	85( L5) (騒音規制法による騒音規制値)	15 m
No.2	65.4( L5)	47( L5)	65.5( L5)		60 m
No.3	73.0( L5)	46( L5)	73.0( L5)		25 m

騒音レベルは全ての地点で規制基準値を満足するものと予測された。また、直近民家地点でも環境基準値を満足するものと予測された。変更計画地周辺は、将来的にも生活保全対象となる建物等が建設できる地形を呈していない。

計画施設稼働による騒音が周辺地域の生活環境に与える影響は軽微であると評価する。

## (3)振動

### ア 調査地点

変更計画地敷地境界付近3地点を設定

### イ 予測条件

現地調査時に測定地点の近くで埋立作業が行われていたNo.1地点で得られた振動レベルの内、L10の最大値から予測計算を行った。

### ウ 予測結果及び評価

寄与振動レベルと将来振動レベルの予測結果は表4のとおり。

表4: 寄与振動レベルと将来振動レベルの予測結果

単位: dB

予測地点	寄与振動レベル	現況振動レベル	将来振動レベル	振動規制基準	発生源からの距離
No.1	48.3	30	48.4	75 (振動規制基準の特定 建設作業振動基準)	15 m
No.2	38.3	30	38.9		60 m
No.3	45.2	30	45.3		25 m

振動レベルは全ての地点で規制基準値を満足するものと予測された。また、予測された将来振動レベルも現地調査で得られた振動レベルも、人が振動を感じる事ができるといわれる 55dB を下回っており、計画施設稼働による振動が周辺地域の生活環境に与える影響は軽微であると評価する。

(4)水質

ア 予測地点

水質の影響が大きくなると想定される変更計画地周辺として設定

イ 予測手法

埋立方法、埋め立てる廃棄物の種類に変更はなく、計画施設の稼働による水質の変化はないと考えられるため、現地調査や既存資料調査で得られた水質結果を基に予測した。

ウ 予測結果及び評価

計画地周縁地下水分析結果及び浸出水分析結果は表5、6のとおり。

表5: 周縁地下水分析結果

単位:mg/L

表 4-45 計画地周縁地下水分析結果(上流側)

分析項目	採水日 2013/5/8	採水日 2014/8/12	採水日 2015/8/3	採水日 2016/7/26	環境基準
カドミウム	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/l 以下
鉛	不検出	不検出	不検出	不検出	検出されないこと。
六価クロム	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/l 以下
砒素	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.05mg/l 以下
総水銀	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/l 以下
アルキル水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/l 以下
P C B	不検出	不検出	不検出	不検出	検出されないこと。
ジクロロメタン	不検出	不検出	不検出	不検出	検出されないこと。
四塩化炭素	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/l 以下
1,2-ジクロロエタン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.002mg/l 以下
1,1-ジクロロエチレン	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	0.04mg/l 以下
1,1,2-ジクロロエタン	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	0.04mg/l 以下
1,1,1-トリクロロエタン	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	1 mg/l 以下
1,1,2-トリクロロエタン	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	0.006mg/l 以下
トリクロロエチレン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/l 以下
テトラクロロエチレン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01mg/l 以下
1,3-ジクロロプロペン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.002mg/l 以下
テウラム	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	0.006mg/l 以下
シマジン	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	0.003mg/l 以下
チオベンカルブ	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/l 以下
ベンゼン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/l 以下
セレン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.01mg/l 以下
1,4-ジオキサン	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05mg/l 以下
塩化ビニルモノマー	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.002mg/l 以下

表 4-46 計画地周縁地下水分析結果(下流側)

単位: mg/L

分析項目	採水日 2013/5/8	採水日 2014/8/7	採水日 2015/7/31	採水日 2016/7/28	環境基準
カドミウム	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/l 以下
鉛	不検出	不検出	不検出	不検出	検出されないこと。
六価クロム	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/l 以下
砒素	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.05mg/l 以下
総水銀	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/l 以下
アルキル水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/l 以下
P C B	不検出	不検出	不検出	不検出	検出されないこと。
ジクロロメタン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/l 以下
四塩化炭素	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.002mg/l 以下
1,2-ジクロロエタン	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	0.004mg/l 以下
1,1-ジクロロエチレン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.01mg/l 以下
1,1,2-ジクロロエタン	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	0.04mg/l 以下
1,1,1-トリクロロエタン	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	1 mg/l 以下
1,1,2-トリクロロエタン	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	0.006mg/l 以下
トリクロロエチレン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/l 以下
テトラクロロエチレン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01mg/l 以下
1,3-ジクロロプロペン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.002mg/l 以下
テウラム	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	0.006mg/l 以下
シマジン	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	0.003mg/l 以下
チオベンカルブ	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/l 以下
ベンゼン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/l 以下
セレン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.01mg/l 以下
1,4-ジオキサン	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05mg/l 以下
塩化ビニルモノマー	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.002mg/l 以下

## 表6: 浸出水分析結果

表 4-47 計画地浸出水分析結果

単位: mg/L

測定月	分析項目				基準値
	BOD				
	(2013年)	(2014年)	(2015年)	(2016年)	
4月	2.2	1.8	8.0	1.4	20
5月	3.0	1.1	11.0	1.3	
6月	3.3	0.5	13.0	3.2	
7月	8.0	4.7	10.0	5.6	
8月	6.3	3.4	9.6	3.8	
9月	2.6	3.8	8.9	18.0	
10月	13.0	5.8	9.3	6.4	
11月	19.0	10.0	9.8	2.7	
12月	2.4	10.0	2.7	2.9	
1月	2.6	3.0	2.4	2.7	
2月	1.9	3.8	0.8	1.7	
3月	4.9	8.4	1.1	2.3	

既存資料調査及び現地調査の結果、変更計画地周縁の地下水は、上流・下流とも全ての項目で環境基準を下回っていた。浸出水のBODも基準値未満であった。これらの結果より、変更計画地における地下水等の水質の状況は、環境基準等を超過することなく良好な状況が保たれているといえる。変更計画により、埋め立てられる廃棄物に変更はなく、計画施設稼働による水質変化の可能性は低いため、周辺地域の生活環境に著しい影響は及ぼさないと評価する。